

芳賀の水物語

-1-

芳賀の地形と水利用

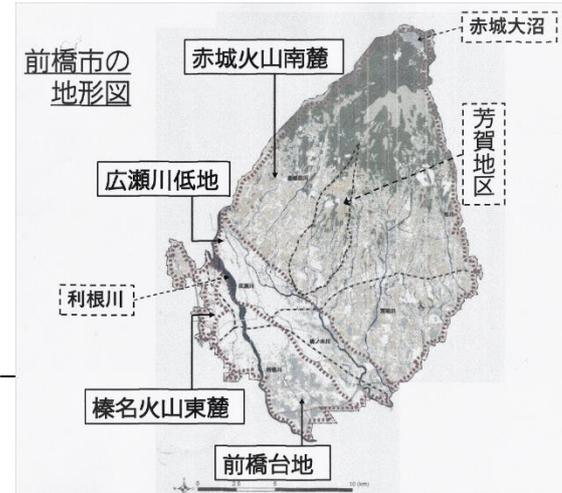
はじめに

私たちが毎日使っている生活用水のしくみや、田畑で使われている農業用水の歴史が、前橋市や群馬県の事業と大きく関わっていることを、改めて知る事が出来ました。そして、これらの調査内容が芳賀館報を通して、地域の皆さんと共用できることを大変感謝しております。

1. 地図をながめて

前橋市の最北端は、上毛三山の雄「赤城山」山頂

のカルデラ湖となる大沼です（標高1340m）。その地形は、北から南に向けて「赤城火山南麓」「広瀬川低地」「榛名火山東麓」「前橋台地」に分割されています。そして私たちの住んでいる芳賀地区の地形は、赤城山南麓斜面に位置して南北に細長い形（11km×3km）をしています。海拔が一番高い地点は金丸町の北部で、標高639mの山地にあり、南に進むにつれて標高約110mまで次第に低くなっています。



昭和二十九年四月に前橋市へ編入し、その後の昭和五十年以後に高花台団地が造成されました。現在は、勝沢町、小神明町、端気町、五代町、鳥取町、小坂子町、嶺町、金丸町、高花台一丁目、高花台二丁目、約4000世

帯・9500人が暮らしています。
2. 用水が不足
赤城山のすそ野は、火山灰に覆われた土地で、雨が降っても、すぐに土の中に浸み込んでしまう保水力の乏しいところで、そのため、水田は河川の水や、ため池の水などが利用できる場所にわずかに作られているだけで、すそ野の畑には、水が少なくても育つ桑・陸稲・麦・野菜などを作ってきました。それでも日照りが続くと、作物が枯れてしまったり、収穫があまりなかったりした年が度々あり、農家の人たちは、昔から用水のことで



4. ため池が多い
土地の保水力が乏しい・河川が少ないことなどを補うため、たくさんのため池があります。以前にはもっとたくさんのため池があったが、用水路の完成によって水が確保されたことから埋め立てられ、耕地や広場、ゲートボール場等となったところもあります。今でも「ため池の泥流し」と称して定期的な清掃活動をしている地域があります。

苦しんできました。日照りが続いた年など、少ない用水を少しでも多く自分の田に取り入れようと、して水争いがたびたび起こりました。
3. 少ない河川
芳賀地区には大きな川が無く、藤沢川とその支流となる金丸川の2つの川が流れているだけです。いずれも水量は少なく、利用されたのは一部の地域だけでした。

- ① 大堤沼（嶺町）
 - ② 笹原沼（小坂子町）
 - ③ 新沼（小坂子町）
 - ④ 池田沼（小坂子町）
 - ⑤ 白鳥沼（小坂子町）
 - ⑥ 細倉沼（小坂子町）
 - ⑦ 一本木沼（小坂子町）
 - ⑧ 十二沼（小坂子町）
 - ⑨ 上堤沼（勝沢町）
 - ⑩ 西堤沼（小神明町）
 - ⑪ 東堤沼（小神明町）
 - ⑫ 胴城沼（鳥取町）
- （つづく）
芳賀地区生涯学習奨励員
連絡協議会

3月の主な行事予定

3月12日（木）芳賀公民館運営推進委員会

（芳賀公民館）

